

【向日市】
校務DX計画

1. 趣旨

向日市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から全ての小中学校で児童生徒及び教職員に1人1台端末(タブレット Wi-Fi モデル)を配備し、大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの積極的な活用等のICT環境の整備をすすめてきました。

しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、ICTを活用した効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 向日市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」(以下「校務DXチェックリスト」という。)に基づく自己点検結果(文部科学省 令和5年11月実施)を踏まえ、向日市における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DXチェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有」「職員会議等の資料をクラウド上で共有」「教職員への調査・アンケート等について、クラウドサービスを用いて実施・集計」といった取組は多くの学校で実施されています。一方で、「保護者からの問い合わせや連絡等へのクラウド活用」「保護者との日程調整におけるクラウド活用」「クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にCBT(※1)導入」等の保護者や児童生徒を対象とした利用については、十分に進んでいない状況です。ただし、保護者との連絡手段については、お知らせ等を電子データで配信する保護者用の連絡ツールを導入するなど、利便性の向上に努めています。

(2) 今後の校務支援システムの在り方検討

現行の校務支援システムはネットワークが分離されており、校務系データと学習系データの連携ができない課題があります。

この課題を解決するため、今後は他自治体の事例を参考にしつつ、校務系と学習系ネットワークを統合したクラウド環境での校務運用を目指し、教職員が働きやすく、児童生徒が学びやすい環境の整備を検討していく必要があります。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を軽減するため、教育委員会と学校間で FAX でのやりとりや不必要な押印及び不必要な手入力を要する事務が残っていないか点検し、不要なものについては取り扱いを見直します。

また、コミュニケーションツールを活用した児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握及び評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進します。

(2) 校務系・学習系ネットワークの統合等

既存のサーバや校務端末の更新時期を見据え、校務系ネットワークと学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。

【注 釈】

- ※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューターベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。